



	学校評価実践内容 (※もくじに対応)	ページ	時 期	参 考 資 料 ・ 実 践 例	ページ
1	目標設定	13	4月	学校評価計画表 校務分掌項目別評価表	43 45
2	情報提供	16	年間を 通して	保護者用アンケート (※年度当初に評価の視点を示す)	46
3	学校関係者評価の説明 第1回学校関係者評価 委員会	19	4月末 ～5月	学校関係者評価委員用アンケート 学校関係者評価・観察用アンケート (※年度当初に評価の視点を示す)	47 48
4	実践・実行	24			
5	中間評価 第2回学校関係者評価 委員会	25	7月	児童用アンケート 教職員用アンケート 生徒用アンケート (SQS P28) 保護者用アンケート (再掲)	49 50 51 (46)
6	外部アンケート調査	27	12月	同上	
7	学校自己評価	29	1月	学校自己評価の実施	53
8	学校関係者評価の総括 第3回学校関係者評価 委員会	31	1月	学校関係者評価の実施 学校評価総括表 実践成果	54 55 57
9	学校改善策	33	1月～ 2月	学校改善策	34
10	報告と公表	35	3月	評価結果の公表	36

学校評価計画表

平成20年度 嬉野市立〇〇学校 学校評価計画表

1. 学校教育目標

かがやく〇〇っ子の育成

2. 学校経営ビジョン

めざす学校像	めざす児童生徒像	めざす教師像
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい学校 ・整理整とんされた美しい学校 ・活気にあふれた学校 ・協力し励まし合う学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・かしこい子(学力向上の推進) ・がんばる子(健康・安全教育の推進) ・やさしい子(心の教育の推進) ・工夫する子(体験的活動の推進) 	<ul style="list-style-type: none"> ・誇りと自覚を持つ教師 ・信頼される教師 ・率先垂範、協働する教師 ・学力向上に努める教師

3. 本年度の重点目標

- ①一人ひとりに確かな力をつける個別指導の推進
- ②9ヵ年を見据えた小中連携教育の推進
- ③体力づくり教育・安全教育の推進
- ④生活習慣・学習習慣の定着
- ⑤心の教育の推進
- ⑥地域参加による学校運営の推進

4. 前年度の成果と課題

- 成果
- ①体験活動による小中連携の充実
 - ②学校安全体制の整備
 - ③心身ともに健康な子どもの育成
- 課題
- ①基礎学力の向上
 - ②生活習慣・学習習慣の定着
 - ③心の教育の推進
 - ④教育課程の研究・実践

5. 計画表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の学校目標、学校経営ビジョン、重点目標の周知	・教職員、児童・生徒、保護者に周知し、おおむね知っている人が90%以上になるようにする。	・職員会議や全校集会等で説明する。 学校だより、ホームページ、PTA総会、学級懇談会等で周知させ、具体的な取組を説明する。
	○教育課程	計画的な教育活動の推進	・学校教育目標をふまえて、教育課程を計画的に実施する。 ・新学習指導要領にそった教育課程の実現に向け8月から本格的な見直しを行う。	・新学習指導要領に関する情報収集を行い、実態に即した教育課程の編成に取り組む。
	○教職員の資質向上	教職員の研修・研鑽の推進	・講師招聘の研修会を実施したり各種研究大会に参加したりし、指導力の向上と指導方法の改善を図る。	・小中合同の授業研究会を年2回実施する。 ・教育相談、人権同和教育の研修会を実施する。 ・各種研究大会で得た研究内容等を全職員に伝える。
	○保護者・地域との連携	学校・保護者・地域の相互理解と連携の推進	・月2回の学校だよりの発行や各種たよりの発行する。 ・保護者の授業参観率を70%以上にする。 ・地域交流や地域貢献を年2回以上実施する。	・毎月10日と25日頃に学校だよりを発行する。 ・授業参観の日程を1ヶ月前には知らせ、月1回の学習公開等を行う。 ・地域行事への児童生徒の参加を促す。
	○小中連携	小中学校の相互理解と交流の推進	・小中合同の研究会を設け、系統的な教科指導と発達段階に応じた生活指導を研究・実践する。	・小中合同の授業研究会を実施し、教科指導面での意見交流を行う。 ・9ヵ年を見通した個人シートを作成する。 ・毎月の職員会議や夏休みの校内研修で小中合同で児童生徒の情報交換会を行う。
	○安全、危機管理	危機管理体制の確立及び学校内外での事故防止の徹底	・危機管理マニュアルをもとに、避難訓練(地震・火災・不審者進入)を実施する。 ・危機管理に対する地域の理解と協力体制の確立。 ・学校管理下における事故を昨年度より減らす。 ・交通事故を0にする。	・危機管理マニュアルの再検討を行い、年2回の避難訓練を実施する。 ・地区懇談会及び安全点検作業を利用して、危機管理に対する共通理解を図る。 ・学級活動、全校集会等で機会ある毎に児童生徒に対する安全指導を行う。 ・安全点検を定期にまたは随時実施し、不備な点があれば早期に改善する。

	●学力向上	基礎基本の定着と学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るため家庭学習の時間を前年度より伸ばす。 ・学習意欲を喚起する課題の出し方と生かし方を研究・実践する。 ・進路指導を通して、将来への見通しをもたせ意欲的に学習に臨ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の意欲・時間・環境・内容に着目し、よりよい家庭学習の習慣をつける。 ・「分かる授業」についての自己評価を実施し、授業改善へ生かす。 ・全職員による研究授業を行い、個に応じた指導の充実を図る。 ・週時程の中に補充学習の時間を計画的に設ける。 ・個の適性を伸ばし、将来との関連を考えた学習指導を実施する。
教育活動	●心の教育	道徳教育、教育相談及び人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全体で行うことを教師自身が認識し、豊かな心の育成を研究・実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上全学級で保護者が参観するふれあい道徳を実施する。 ・全児童生徒に担任やスクールアドバイザーが、年2回以上教育相談を実施する。 ・清掃・ボランティア活動(花いっぱい運動等)を実施する。 ・人権週間に「人間尊重の精神」を育てる集会を実施する。
	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の確立と体力の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝食をきちんととり、児童生徒を95%以上にする。 ・食育に関する授業等を実施し、望ましい食習慣を育成する。 ・歯磨きを励行し、う歯数を減らす。 ・体力テストの結果を生かし、効果的なトレーニングを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健便りや集会を通して「早寝・早起・朝ごはん」の大切さを伝える。 ・学校栄養職員の学校訪問を通して共通理解し授業等を充実する。 ・鏡や歯磨きの映像を見せながら指導を行う。 ・「親子歯磨きカレンダー」を利用し家庭での習慣化を図る。 ・毎週木曜日の全校マラソンを継続的に実施する。
	○読書指導・学校図書館教育	読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間貸し出し冊数小学校150冊・中学校50冊以上になるようにする。 ・図書館活動の広報に努め、学校行事や教科との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の推薦図書ブックリストを活用する。 ・朝の読書タイムを実施する。 ・読み聞かせタイムや読書週間、読み聞かせの「お話どんどん」を実施する。
	○総合的な学習の時間	総合的な学習の時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の豊かな自然に学び、地域と交流しながら、主体的に問題を解決したり、学んだことを表現したりする力をつける。 ・英語活動は、楽しいと答える児童が80%以上にする。(小学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高原や森の学習を通して、主体的に郷土を学ぶ態度の育成を図る。 ・地域の人材資源を生かし、学習内容の充実を図る。 ・学習内容を学級通信や文化祭・参観日などで発表させ表現力の向上を図る。 ・英語活動で文化に対する理解を深め、交流する喜びのある授業を実践する。(小学校)
	●小学校低学年の学習環境の改善充実(少人数学級・TT指導)	学習習慣や生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・話手を見て聞き、語尾まではつきり話すようにする。 ・学用品及び宿題忘れがない児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方・話し方のめあてを掲示する。 ・生活点検表をつくり、家庭と連携して生活習慣の確立を図る。
○中1英・数の学習環境の改善充実(少人数指導・TT指導)	中学1年生の授業の改善充実	<ul style="list-style-type: none"> ・TTを有効に活用し、個々の理解度を高め、基礎基本を定着させる。 ・学習状況調査において数学・英語の各領域とも県平均以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TTの活用が生徒の理解度に効果的に反映しているかを、毎時間生徒が行う自己評価を参考に授業改善し、基礎基本の定着を図る。 ・学習状況調査の結果を考慮し、段階的に県平均以上にする。 	

校務分掌項目別評価表

(一部抜粋)

(担当 ○○)

評価項目	学力向上				
評価の観点 (具体的評価項目)	基礎基本の定着と考える力の育成				
具体的目標	保護者のアンケートよりA規準とB規準合わせて80%以上(うちA規準は20%以上)となるようにする。 児童のアンケートよりA規準とB規準合わせて80%以上(うちA基準は40%以上)となるようにする。				
	具体的方策	評価内容・基準	評価者・評価		
	○ 年間行事との連携を図りながら、日常生活から問題を見つけ出し、解決していく学習単元をつくり出す。 ○ モジュールの構造をいかし、学習内容と子どもの実態に応じて30分授業や60分授業を実践する。 ○ 校内研究と連携を図りながら算数科の重点単元を見つけ、TTや少人数指導がいきる単元づくりをする。 ○ 学習状況調査等を実施し、その分析結果からその後の指導法改善にいかす。 ○ スキルタイムを活用して基礎・基本の徹底を図る。 ○ 学習コーナー、掲示板等をより充実させ、学習意欲を高めていく。 ○ 学年ごとのおすすめの本の読書奨励及び読書タイムによる読書の励行。	○子どもたちは、読書に親しんでいる。職2 児2 保2 ○子どもは授業がよく分かっている。職5 児10,11 保5 ○学校は学力向上に努力している。職9 保9 ○学校は、子どもの学習状況(能力や努力)を適切かつ公平に評価している。職11 ○学校は、先生たちが協力しながら、熱心に指導に当たっている。 ・今年の本を読んだ。児2 ・先生は学校の勉強を分かりやすく教えてくれている。児10 ・勉強が分からないとき、先生は自分にいてねいに教えてくれる。児11 ・少人数・TTでの授業は分かりやすい。職13、21 児14 保12	職	98% (40%)	A
			児	87% (50%)	
			保	88% (25%)	
成果と課題	校内研究と連携を図りながら、算数科の授業研究を行い、指導法改善に向けた取組みを行ってきた。昨年度に引き続き、モジュールの構造を生かした単元づくり、夏休みなどの長期休業中を視野に入れた二学期制のカリキュラムづくりや夏季休業中の夏休学級による補充学習も行ってきた。4月に行われた全国学力テストや12月に行われた学習状況調査の結果分析を行い、考える力や表現する力の向上にも努めてきた。アンケート結果を見ると、この学力向上に向けての取組みを教師・児童・保護者は肯定的にとらえている。ただ、本をよく読んでいる児童が74%にとどまっており、読むことへの興味関心を高める必要がある。そのため、教師の読み聞かせの場を多くしたり、年間を通して学年別に親しんでほしい本の選定を行ったりして本に親しむ機会も増やしていきたい。保護者については判断基準となる材料が少ないためか、明確にA規準にするところがややすすくない。今後、CRTの分析結果も指導法改善に生かし、また、学校の取組みを積極的に保護者に伝え、家庭と連携して学力向上を図っていきたい				

保護者用アンケート

子どもたちのためのよりよい教育環境づくりアンケート(保護者用) お子様の学年()年

※下記のA~Dを参考にし、該当するところに○印をつけて下さい。

(Aよくあてはまる Bだいたいあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない)

評価項目	アンケート項目	評価				
		A	B	C	D	
学校運営	1	学校の目指す児童像「よしだっこ」を知っている。				
	2	小中学校で、連携した取り組みがなされていると思いますか。				
	3	学校便りや学級便りなどは、年間を通して、計画的に出され、学校での児童の様子を分かりやすく伝えている。				
		学校だよりや学級だよりなど、連絡物は、必ず読んでいます。				
	4	学校は、学校行事や授業等を参観する機会を設け、保護者が学校へ来やすい工夫をしている。				
		学校での授業参観・学級懇談・講演会等には、できるだけ参加している。				
	5	学校は、地域のいろいろな機関(公民館、民生委員会、「生き生き吉田会」、婦人会等)と協力しながら、教育活動を進めている。				
学力向上	6	先生は、子どもに分かりやすいように授業を工夫している。				
	7	学校は、特設タイム【読書タイムやはげみタイム(計算タイム)】等を設けたり少人数学習など指導の工夫をしたりしながらどの子にも基礎学力が身につくようにしている。				
		8	家庭では、子どもの学習状況を把握するようにしている。			
心の教育	9	学校では、縦割り集団活動や地域の方や高齢者や幼児等、人とのふれあい活動等を実施し、豊かな心の育成に努めていると思う。				
	10	(学校では、授業参観等で、保護者に生命尊重・思いやり親切、郷土愛、家族愛等を中心とした道徳の授業公開を公開しています。) 命の大切さや思いやりの気持ち家族や郷土を愛する心を育てる指導に努力していると思う。				
	11	先生は、子どもをよく理解しようと努力し学校では、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。				
健康・体づくり	12	学校では、野菜を作って自分たちで食べてみる等、体験を通して学習したり食育だよりを発行したりするなど家庭と連携しながら食の大切さについて適切に指導している。				
		家庭でも早寝早起き、朝食を食べよう話をしている。				
体験活動	13	子どもは、郷土の産業(焼き物や米、お茶づくり等)の体験や吉田の名人さん発見など郷土への理解を深める学習をしている。				
学習環境の充実	14	学校では、生活振り返りカード等を利用して、家庭と連携した基本的な生活習慣の定着に取り組んでいる。				

※原因や課題と思われること、また、教育活動全体について、ご自由に書いてください。

学校関係者評価委員用アンケート

子どもたちのためのよりよい教育環境づくりアンケート(評価委員様用)

○ 学校関係者の皆様の率直なご意見をお願いします。

※下記の事項を参考にし、該当するところに○印をつけて下さい。

(Aよくあてはまる Bだいたいあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない)

	評価項目	評価			
		A	B	C	D
1	学校の教育目標、方針は、わかりやすい。				
2	小中学校で、連携した取り組みがなされている。				
3	学校は、学校行事や授業などを参観する機会を設け学校へ来やすい工夫をしている。				
4	学校は、情報発信を十分行っている。(学校便り、ホームページ、各種たより等)				
5	学校は、地域や保護者との連携ができています。				
6	教師は、子どもに分かりやすいように授業を工夫している。、				
7	学校は、子ども達の学力向上に取り組んでいる。				
8	教室環境は、きちんと整理され、整頓されている。				
9	学校では、地域の方や異年齢集団、高齢者の方々との交流を進めている。				
10	学校では、ふれあい道徳の実施など豊かな心の育成に努めている。				
11	職員は、協力して教育にあたり、職員の雰囲気もよい。				
12	職員の対応は、適切である。				
13	職員は、誠意を持って、児童の指導にあたっている。(言葉使い、態度など)				
14	児童の学習習慣は、定着している。(学習中の姿勢、学習の準備、用具の整理整頓等)、				
15	児童は、あいさつがよくできる。				
16	児童は、学校で、友達と仲良く活動している。				
17	児童は、学校の決まりを守った生活ができています。(廊下通行、教室での過ごし方等・)				
18	児童は、地域で、きまりを守って生活している。(自転車の乗り方、遊び等)				
19	学校は、健康な体づくりに取り組んでいる。(基本的な生活習慣の育成、食育指導等)				
20	給食指導は、適切に行われている。(準備の仕方、給食マナーや後片付け等)				
21	「児童生徒の環境に、危険はないか」学校は、安全や事故防止に配慮している。				
22	児童は、地域の行事によく参加している。				

※原因や課題と思われること。また、教育活動全体について、ご自由に書いてください。

学校関係者評価・観察用アンケート

子どもたちのためのよりよい教育環境づくりアンケート(学校関係者評価・観察用)

※下記の事項を参考にし、該当するところに○印をつけて下さい。

(Aよくあてはまる Bだいたいあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない)

評価項目	アンケート項目	評価				
		A	B	C	D	
登下校時	1	児童は、安全に登校している。				
	2	学校の安全対策に対する手だては、適切である。(集団登校、交通の見守り等)				
	3	朝の挨拶は、自分からすることが、できる。				
	4	登校時間は、適切である。				
	5	下校時は、安全対策が図られている。				
朝の時間	6	朝は、落ち着いたふんいきで始められている。				
	7	朝の特設タイム(朝の読書、ことばタイム、勤労タイム、プレイタイム等)は、工夫されている。				
学習時間	8	教室環境は、きちんと整理され、整頓されている。				
	9	教師の説明や発問、板書などは、適切である。(分かりやすい授業の工夫をしている。)				
	10	問題解決学習や体験的な学習など児童の興味関心を活かした学習が適切に行われている。				
	11	児童の「発表の仕方、聞き方」は、適切である。				
	12	児童の学習習慣は、定着している。(学習中の姿勢、学習の準備、用具の整理整頓等)、				
	13	TTや少人数、習熟度学習など個に応じた学習の工夫が行われている。				
休み時間	14	学校の決まりを守った生活ができている。(廊下通行、外での遊び、教室での過ごし方等)				
	15	「児童生徒の環境に、危険はないか」学校は、安全や事故防止に配慮している				
	16	児童は、学校が楽しそうである。				
職員	17	職員の児童に対する対応は、適切である。(言葉遣い、態度等)				
	18	職員は、協力して教育にあたり、職員の雰囲気もよい。				
給食指導	19	給食指導は、適切に行われている。(準備、給食マナー、後片付け等)				
	20	食後の歯磨き指導は、習慣化している。				
掃除指導	21	掃除の指導は、適切であり、職員も一緒に活動している。				
学習環境の充実	22	学校では、生活振り返りカード等を利用して、家庭と連携した基本的な生活習慣の定着に取り組んでいる。				
小中連携	23	小中連携した取り組みになるよう共通理解が図られている。				

※原因や課題と思われること、また、教育活動全体について、ご自由に書いてください。

児童用アンケート

よりよい学校にするためのアンケート(児童用)

()年 ()組

※ このアンケートは、みなさんの生活をよりよくするために行うものです。一番あてはまるものに○じるしをつけてください。()の中には、あてはまるものを書いてください。

番号	し つ も ん	○ じるしをつけましょう。
1	あなたは、「がんばれ!よしだっこ」が、言えますか。	①いえる ②だいたいいえる ③すこしいえる ④ ぜんぜんいえない
2	小学校と中学校と一緒にする運動会や中学校の先生から教えてもらう英語活動は、楽しいですか。	①楽しい ②だいたい楽しい ③あまり楽しくない ④全く楽しくない。
3	学校だよりや学級だよりをお家の人に見せていますか。	①かならず見せている ②だいたい見せている ③あまりみせていない ④全くみせない
4	学校での授業は、わかりやすく楽しいですか。	①よくわかる ②だいたいわかる ③あまりわからない④全くわからない
5	TTや少人数での授業は、わかりやすく楽しいですか。	①よくわかる ②だいたいわかる③あまりわからない ④全くわからない
6	図書室の本をよく借りて読んでいますか。	①よく本を読む ②ときどき本を読む ③あまり本を読まない ④全くよまない
7	自分から、進んであいさつをしていますか。	①いつもしている ②だいたいしている ③あまりしない ④全くしない
8	こまっている人やまわりの人にやさしくしようと心がけていますか。	①いつもしている ②だいたいしている ③あまりしない ④全くしない
9	あなたは、学校での生活が楽しいですか。	①すごく楽しい ②楽しい ③あまり楽しくない ④楽しくない
	※ それは、どうしてですか。	()
10	早寝、早起きをしていますか。(6時頃には、起きる。10時頃には、寝る)	①いつもしている ②だいたいしている ③あまりしない ④全くしない
11	朝ご飯を食べてから登校していますか。	① いつも食べている ②だいたい食べている ③あまり食べない ④全く食べない
12	食べものの学習をして、健康には、食事が大切なことが分かりましたか。	①よくわかる ②だいたいわかる ③あまりわからない④全くわからない
13	生活ふりかえりカードを利用して、生活の仕方がよくなっていますか。	① よくなっている ②すこしよかった ③あまりよくなっていない ④全くよくなっていない。
14	吉田で、できるものや米やお茶を育てたりしたことをまとめたり発表することができましたか。	①よくできた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④全くできなかった

※学校をよくするために、こうすればよいという意見があれば書いてください。

教職員アンケート集計結果（一部抜粋）

番号		評価項目	具体的評価内容	評価				
				4 達成できている 3 おおむね達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない				
				段階	全体として		個人として	
					1回目	2回目	1回目	2回目
1	学校経営方針	教育目標、本年度の重点目標	・本校は教育目標や経営方針を保護者や地域に知らせていると思いますか？	平均	3.6	3.6	0.0	0.0
2	開かれた学校づくり	学校公開授業 授業参観	・本校は保護者や地域の方々に教育活動(授業参観・開放)の参観日を参加しやすいように以下の取り組みを考えていますが参加しやすくなると思いますか？(工夫する事は日曜日開催や日程や見所を一ヶ月前に文書やメール等で保護者にお知らせする予定です。)	平均	3.6	3.8	0.0	0.0
		家庭への連絡 意思の疎通	・本校(あなた)は学校便りや学級だより及びメール発信等を積極的に行い、保護者や地域への啓発に努めていると思いますか？	平均	3.2	3.9	3.0	3.1
3	教職員の 資質の向上	職務の遂行	・あなたは教育目標を達成するように各自が校務分掌に取り組み、自己申告書の向上に繋がっていますか？	平均	0.0	0.0	3.5	3.4
		服務規律の保持	・本校は教職員の服務について事ある毎に確認を行い、服務の遵守を促していると思いますか？	平均	3.8	3.8	0.0	0.0
			・学校(あなた)は服務規律の保持に努め、縦のライン及び横のラインとも「報告・連絡・相談」を密に行っていますか？	平均	3.6	3.7	3.6	3.8
		研 修	・学校(あなた)では実践的指導力を身に付けるために教育センター等の研修受講や全職員年1回の授業研究会を実施し、職員の資質向上に努めていると思いますか？	平均	3.6	3.4	3.4	3.5
4	危機管理 体制の整備	危機管理	・本校は生徒安全に向けて危機管理対策として、計画的な指導や対応が迅速になされていると思いますか。 ・本校は危機管理対応について保護者等にメールや文書等での情報発信を行っていますか。	平均	3.0	3.8	0.0	0.0
			・あなたは危機管理意識(行動マニュアルの確認)を持って、施設・設備の安全点検と子供たちへの安全指導を心掛けていますか？	平均	0.0	0.0	3.4	3.3
		施設・環境整備	・本校は安全で整った教育環境の整備がなされていると思いますか？	平均	3.5	3.8	0.0	0.0



学校教育に関するアンケート（生徒用）

このアンケートは、これまでの学校生活を振り返り、これからの向上につなげるためのものです。このアンケートによって決して不利な扱いを受けることはありません。今の自分の状況を振り返って正直に記入してください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗り潰してご回答ください。

: 空白マークの例

: 正しい塗り潰しの例

: 不十分な塗り潰しの例

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したりしないように注意してください。

(1)あなたの学年は

1: 1年生

2: 2年生

3: 3年生

(2)あなたの性別は

1: 男

2: 女

(3)通学方法は

1: 徒歩

2: 自転車

3: その他

これからいくつかの質問をします。該当する番号に1つだけマークをしてください。

(4)私は、今年度の基本理念が「やりたいことは、やらなければならないことの向こう側にある」ということを知っている。

1: 当てはまらない

2: やや、当てはまらない

3: やや、当てはまる

4: 当てはまる

(5)私は、今年度の生活キーワードが「朝(挨拶・朝読書)昼(授業・残菜0)夕(掃除・部活動)」ということを知っている。

1: 当てはまらない

2: やや、当てはまらない

3: やや、当てはまる

4: 当てはまる

(6)私は、毎朝登校したらすぐ朝読書をしている。

1: 当てはまらない

2: やや、当てはまらない

3: やや、当てはまる

4: 当てはまる

(7)私は、自分から挨拶をしている。

1: 当てはまらない

2: やや、当てはまらない

3: やや、当てはまる

4: 当てはまる

(8)私は、真剣に授業を受けている。

1: 当てはまらない

2: やや、当てはまらない

3: やや、当てはまる

4: 当てはまる

(9)私は、宿題を忘れずにしている。

1: 当てはまらない

2: やや、当てはまらない

3: やや、当てはまる

4: 当てはまる





(10)私は、授業の内容はだいたいわかる。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(11)私は、4時間目終了後すぐ給食の準備に取りかかっている。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(12)私は、給食を残さないで食べている。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(13)私は、時間いっぱい真剣に掃除をしている。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(14)私は、毎日帰りの会が終わったらすぐ部活動に行って活動をしている。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる
- 5: 部活動に入っていない

(15)私は、先生に悩みを相談できる。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(16)私は、嬉野中学校がコミュニティースクールであることを知っている。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(17)私は、地域の行事にはできるだけ参加するようにしている。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(18)私は、学校便り等中学校からの配布物は必ず保護者に渡している。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

(19)私は、学校の準備は前日にすませている。

- 1: 当てはまらない
- 2: やや、当てはまらない
- 3: やや、当てはまる
- 4: 当てはまる

ご協力ありがとうございました



学校自己評価の実施

(1) 自己評価のための資料収集

より客観的に自己評価を行うためには、評価のための資料が必要である。評価計画を作成した段階で、各項目の評価に必要な資料を収集しておくよう職員に呼びかけておいた。学校関係者評価委員会での説明資料にも生かすことができた。まだ不十分な点もあるが教育活動と評価の一体化を図ることにもつながってきている。

担当者	評価項目	評価のための資料
校長・教頭・教務	○学校経営方針	・外部・職員アンケート など
	○教職員の資質向上	・外部・職員アンケート ・校内研修実施状況・記録 など
	○開かれた学校づくり	・外部アンケート ・授業参観・学級懇談会参加率 ・各行事の参加率 など
学力向上部	○学力向上	・外部アンケート ・家庭学習チェックシート ・T T、少人数授業の実施状況、写真 ・T T指導における児童の意識調査 ・C R T学力検査結果 など
	○読書指導・学校図書館教育	・児童の図書貸出カード・集計 ・読書活動の取組の写真 ・一斉読書の様子 など
生徒指導部	○安全管理	・外部アンケート ・安全指導の実施記録、写真 など
	○心の教育	・外部アンケート ・心のアンケート ・個人面談の記録 ・ふれあい道徳実施状況、写真 など
保健体育部	○健康・体づくり	・外部アンケート ・生活習慣調査 ・食育だより、保健だより ・授業実践記録、写真 ・児童の久間リンピック取組状況 ・児童の欠席状況 など
特別活動部	○学年・学級経営	・外部アンケート ・心のアンケート ・個人面談の記録 など
低学年部	○小学校低学年の学習環境の改善	・忘れ物調べ ・外部アンケート ・日常の観察記録 など
特別支援教育部	○特別支援教育	・特別支援教育研修部会、研修実施状況 ・職員アンケート ・支援計画、指導計画 など

(2) 自己評価を実施して

職員全員が学校評価に関わるように、各部会で分担して自己評価を行った。それぞれの取組を振り返るよい機会となった。全体での検討会でも職員それぞれの考えを聞くことができ、学校経営への参画意識と職員同士の同僚性を育むことにもつながった。自己評価をする際の尺度のとらえ方にずれがあることにも気づいた。職員の評価力を高めることが今後の課題である。

学校関係者評価の実施

(1) 学校関係者評価委員会の実施日及び内容

第1回	学校関係者評価委員会 説明・意見交換	5月 日	○本年度学校教育計画について 重点目標、具体的な方策 ○学校評価計画について ○学校評価・関係者評価について
第2回	学校関係者評価委員会 説明・意見交換	8月 日	○授業参観 ○これまでの学校の教育実践について ○中間評価結果について ○外部アンケート項目について
第3回	学校関係者評価委員会 説明・意見交換	1月 日	○ 学校関係者評価 の実施 ・学校関係者評価の進め方 ・重点目標を中心に学校の取組、成果と課題 ・自己評価結果の説明 ○保護者から学校への要望等について

(2) 学校関係者評価を実施するにあたって

本年度はじめて学校関係者評価を実施した。まずは私たちも学校評価委員の皆さんも学校評価システムの流れに慣れ、学校関係者評価のやり方を理解してもらうということを念頭に置いて進めていった。堅苦しい雰囲気排除し、お互いうち解けて話し合いができる雰囲気を作ろうと考えた。

そのために、次のような点に配慮した。

- ① 資料を事前に配布し、目を通して意見をまとめておいてもらった。
 - 学校評価表（自己評価結果）
 - 外部アンケート・職員アンケート集計結果
 - 重点目標に関する取組状況
 - 昨年度学校評価表（平成19年度総括評価表）
 - 学校関係者評価の進め方について（目的、方法など）
 - 関係者評価の記入の仕方
 - 学校関係者評価委員会について（お知らせ・お願い）
- ② 資料は、なるべく難しい表現をなくし、分かりやすいものにした。
- ③ 説明については、目で見て分かるようにプレゼンテーションを準備した。
 - 教育活動の取組状況（写真等）
 - 取組の成果・課題の分かる資料（グラフなど）

(3) 学校関係者評価に取り組んで

- ① もっと簡単に評価計画から学校関係者評価までを一枚の評価シートで進めていけないだろうか、工夫が必要である。
- ② 自己評価結果についての意見交換ということで、関係者評価委員の方々も取り組みやすかったようである。目標について、取組について、方策について、子どもの様子についてなどいろいろな角度からの意見が出ていた。
- ③ 資料の事前配布、プレゼンテーションによる説明は効果的だった。取組の状況と子どもの姿の2つの視点から作っておいたので、分かりやすかったようだ。特に保護者から多くの意見が出さ、建設的な意見も多かった。
- ④ 5人の評価委員の意見を集約し、まとめる時間も必要ではないだろうか。
- ⑤ はじめての学校関係者評価であったが、その目的、進め方がつかめてきた。本校の教育活動の振り返りを保護者や地域の方と一緒に進めていく中で、学校を理解してもらうことができるし、協力も得られると感じた。また、本校のことを大切に考えていただいていることが伝わってきた。
- ⑥ 来年度は、評価委員の方々にもっと学校へ足を運んでもらうための工夫も必要である。
- ⑦ 関係者評価委員会の開催期日が少し遅く、本年度は計画通りにいかず後手後手になってしまった。見通しがもてたので、来年度は適切な時期に開催したい。

学校評価総括表

平成20年度嬉野市立〇〇学校 学校評価総括表

1. 学校教育目標

かがやく〇〇〇っ子の育成

2. 学校経営ビジョン

めざす学校像	めざす児童生徒像	めざす教師像
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい学校 ・整理整頓とんされた美しい学校 ・活気にあふれた学校 ・協力し励まし合う学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・かしこい子(学力向上の推進) ・がんばる子(健康・安全教育の推進) ・やさしい子(心の教育の推進) ・工夫する子(体験的活動の推進) 	<ul style="list-style-type: none"> ・誇りと自覚を持つ教師 ・信頼される教師 ・率先垂範、協働する教師 ・学力向上に努める教師

3. 本年度の重点目標

- ①一人ひとりに確かな力をつける個別指導の推進
- ②9ヵ年を見据えた小中連携教育の推進
- ③体力づくり教育・安全教育の推進
- ④生活習慣・学習習慣の定着
- ⑤心の教育の推進
- ⑥地域参加による学校運営の推進

4. 前年度の成果と課題

- 成果
- ①体験活動による小中連携の充実
 - ②学校安全体制の整備
 - ③心身ともに健康な子どもの育成
- 課題
- ①基礎学力の向上
 - ②生活習慣・学習習慣の定着
 - ③心の教育の推進
 - ④教育課程の研究・実践

5. 総括表

領域	評価項目	評価指標	自己評価(○成果と●課題)	評価	学校関係者評価(検証・助言)	評価	改善策(誰が・いつまでに・どうする)
学校運営	学校経営方針	・学校は、学校目標、経営ビジョン・重点目標を周知させ、教育活動が展開される中で認識させたか	○教職員・児童・生徒・保護者に十分浸透しており、周知率は96%と高い。様々な教育活動が展開されている中で認識されている。特に今年度は学校紹介のパンフレットも配布できた。定期的な学校便りや学級通信も活用し教育活動の意義を浸透した。更にホームページをリニューアルし、本校らしさを強調した。	A	・経営方針の周知率が高い。 ・認識できていると判断して良い。 ・校長の知恵袋事業で、学力向上に取り組むことは有効である。	A	・学校行事等の予定をなるべく早くお知らせし、学校に来てもらう機会を増やす。そうすることで、学校教育目標の下に教育活動を展開していることを実際に目で見て、理解してもらおう。更に、「校長の知恵袋事業」についての説明を年度当初に行い、その内容や実施状況を随時伝えていく。
	教育課程	・授業時数は達成したか ・新学習指導要領にそった年間指導計画を作成したか	○月末までに授業時数の集計を行い、計画に沿ってほぼ達成した。 ○年間計画の役割分担を12月までに各教科担当で確認した。 ○授業時数の確保に向け補充学習を増やし、欠課時数を減らした。 ●授業時間割の作成をどうするか	A	・授業時数確保ができています。	A	・新年度になってから、4月当初までに講師の先生の授業数の調整や教科担当者を決定する。
	教職員の資質向上	・授業力は向上したか ・相談しやすい信頼関係を築いたか ・ひとりひとりに楽しい学校生活を送らせることができたか	○講師招聘の研修会を昨年度より多くもった。また、全職員による授業研究会も行き、指導力の向上を図った。 ○児童・生徒のアンケートでわかりやすい授業だったかの結果は、79%が肯定的な回答だったので、少人数を生かした指導の研究を継続し高めていく。 ●学校があまり楽しくないと思っている生徒がおり、意欲や活気がでるような教師の働きかけと交友関係への配慮が足らなかったのではないかと考える。	B	・職員研修の内容を保護者に伝えてほしい。 ・学校があまり楽しくない児童生徒が、小学生で8名、中学生で2名は多いと思う。 ・学校環境に抵抗を感じている児童生徒がいれば問題である。 ・楽しくなければ学校ではないと考える。 ・中学生になるとなかなか思ったことを言わないので、小学生の時期から思ったことや悩みなど気軽に言えるように育ててほしい。	B	・担任は、児童・生徒の意欲を喚起し活気がでる学級づくりを再構築し実践する。日々の学校生活が充実して楽しいといえるような取組を積極的に行う。 ・人間関係が円滑にいけない児童・生徒の気持ちを教師がキャッチして、安心して学校生活を送れるようにする。早期発見・効果的な対応ができるように研修を深める。
	保護者・地域との連携	・学校と家庭・地域の連携が更に深まったか ・学校行事への保護者・地域住民の参加を促進したか	●毎月1回学校便りを発行することができた。 ○学校開放の立場から各種行事や授業参観を計画的に行うことができた。 ○地域での祭りや運動会等積極的に参加をしていた。 ●地域との連携を深めるための行事への参加をどう促し、話し合いの機会をつくるか。	C	・保護者地域と職員との連携は、改善の方向に進んでいると思います。 ・参観者は、父親が増えている傾向にあると思います。	A	・各種行事への児童生徒への参加をPTAと一体になって促し、また、学校と保護者・地域との話し合いが充実するように回数や内容を年度当初に検討する。
	小中連携	・小中合同の授業研究会を年2回以上実施できたか ・校内研修で、児童・生徒の情報交換会を年5回以上実施できたか	○小中合同の授業研究会を2回実施し、有意義な意見交流ができた。 ○児童生徒の情報交換会は、定例の会議で毎月話し合った。また、他にも情報を小中で自由に話し合う雰囲気がある。	A	・児童生徒に対する指導は、担任ばかりでなく、全職員で対応していただければと思います。	A	・小中合同の授業研究会が更に有意義になるように、少人数を生かした指導方法を昨年以上に追求し、【〇〇メソッド】を完成する。 ・児童生徒の情報交換会の回数は多かったが、小中で児童生徒をよく観察し、早期発見・早期対応をする。
	安全、危機管理	・危機管理マニュアルの再検討をしたか ・年2回の避難訓練の実施ができたか ・月1回の安全点検を実施し、改善したか ・学級活動・全校集会等で危機管理に関する安全指導ができたか	○4つの具体的方策は、全て計画通り実施できた。その結果、交通事故等生命に関する大きな事故は起きなかった。特に今年度は、地震から火災が起こったという二次災害に向けた避難訓練を実施した。国土交通省より地震体験車をよび、震度7を全員に体験させることで自然災害に備える心構えを習得させた。 ●児童においては、安全意識の定着が低いという課題が残った。	A	・自転車の二人乗りは絶対にしないように指導してほしい。 ・道路も整備されていて安全面は保証されている。	A	・児童は、安全意識の定着が低いので、今後、視覚的に訴える教材を使い、意識の向上を図っていく。

教育活動	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科ごとに「授業自己評価」を実施し、授業改善へ生かすことができたか 全職員による研究授業を実施し授業改善に生かすことができたか 個別学習や補充学習に力を入れたことで、基礎学力の向上が見られたか 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が研究授業を行い、指導方法改善に生かすことができた。 授業の最後に自己評価カードを記入したことで、自己評価力がついてきた。 月2回の補充授業を計画的に実施することができた。 ●家庭学習の習慣づけを図るため、保護者への協力とともに、学習の仕方をどのように身につけさせるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習は、宿題を出さなければいけないと思います。 より学力の向上を目指すためには、家庭学習の習慣づけが大切であると思います。 「勉強しなさい。」と言う母親と父親の共通理解を図る必要もあると思います。 子どもに対する親の接し方も考えなければいけないと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の仕方を紹介し、学級懇談会等で、保護者にも協力を呼びかけていく。
	心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 年2回以上の教育相談を実施したか ふれあい道徳実施率が100%だったか 清掃活動やクリーンタイム・年2回の花いっぱい運動を実施したか 人権週間に集会を審判したか 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの具体的施策は、全て計画通りに実施できた。特にスクールガードアドバイザーを十分に活用することで、全児童・生徒の心のケアができた。 ●相手を思いやる態度や言葉遣いにおいて、まだできていない点がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を思いやる心に対する自己評価では、自分は相手に対して優しく接していると思っているが、相手は優しく接してくれているとは思っていない。 児童生徒、職員全員で会食をする機会をつくってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる児童生徒に関して、今後とも教育相談を行い、担任も普段の声かけをより一層大切にして、困った時は、相談しやすいように気を配る。
	健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さに対する意識を高めたか 家庭での歯磨きを習慣化させたか 学校栄養職員の指導を日常生活に生かされたか 毎週木曜日の全校マラソンを継続的に実施したか 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食摂取率10月で小学生97.5%、中学生95%に達成した。夜更かしのため、保健室を訪れる児童生徒がいなくなった。 ○歯科保健教室で、自分自身の口腔内の状態を把握できた。歯科受診をする児童生徒が増えた。 ○学校栄養職員の学校訪問で食に対する理解が深まった。 ●長期休業になると、家庭で歯磨きをしていない児童生徒が見られた。 ○全校マラソンで中1の持久力が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 項目7～9までは、家庭にも問題があるのではないかと思います。 長期休業中の歯磨き指導は、自己管理の部分と家庭の問題が大きいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学5～6年の歯磨きの状態が良好ではないので、食後の歯磨きを養護教諭が個別指導を行う。 長期休業前や長期休業中に、家庭との連絡を担当と養護教諭で密にし、歯磨きの定着を図る。
	読書指導・学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 小学校は150冊、中学校は50冊以上の貸出数になったか 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校は152.9冊、中学校は100冊の貸し出し数になり、全学年よく読んでいる。 ○オーサービジット・図書館祭りやお話の来校など読書への意欲が高まる活動ができた。また、読書チャレンジ運動で県の取組賞に輝いた。 ●2年目になり、朝の読書タイムも読む本の内容も考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書感想文コンクールの取り組みや絵画展への参加などにも取り組んでほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ブックリストの活用を推進し、読書タイムのルール作りを新年度までに行う。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 学習振り返りカードでの満足度が80%以上になったか 保護者の活動内容周知率が80%以上になったか 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭・他校との交流会・授業参観などで、まとめたことを発表し、満足度が80%以上になった。 ●一人一人の調べる学習や発表活動は十分だったが、それに対する意見の交換などが十分にできなかった。 ○英語活動は、小中連携で小中学校の教師が共に授業をすることが、授業の楽しみにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 炭焼き体験は、児童生徒にとって良い体験だったと思います。 子供たちの活動を新聞等にのせることは、とても良いと思う。今後もメディアを活用して大野原の良さをアピールしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年末に意見交換をしながら1年を振り返り、学習のまとめをする。 英語活動はいろいろなカード類がそろったので、これらを活用して興味をもたせる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 生活点検カードの記入率が90%以上になったか 宿題提出が100%になったか 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き方、話し方のめあては、全校統一した提示ができ、小学校低学年にも有効であった。 ○生活点検カードの記入、宿題の提出は、ほぼ100%だった。 ●聞き方についての指導が必要な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に慣れる段階の低学年には、学習習慣や基本的な生活習慣をきちんと身につけさせる必要性を感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度内に少しでも向上できるよう、普段の指導で意識させていきたい。 	
特定課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の「わかる授業」自己評価の5段階評価で平均3以上だったか 学習状況調査において数学・英語の各分野とも、県平均まで向上させることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の生徒の「わかる授業」自己評価の5段階評価で約9割近くの生徒が3以上の理解度が得られた。 ●学習状況調査において数学・英語の各分野毎に見ると、県平均までいった分野といかなかった分野があり、今後はいかなかった分野に対する対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語と数学はT・Tで指導しているが、学習効果が出ているのか疑問に思います。 TT導入について必要かどうかを職員でも検討したらどうでしょうか。 競争意識を育てる必要もあるのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解が不十分な分野においては、放課後等を使って、個人指導を行い、基礎基本の定着をめざす。 	

6. 総合評価
 ・11月の中間評価から改善が進み、保護者・地域との連携の項目等では、年度末の評価は成果を上げた。児童生徒全員が学校が楽しいといえる教育活動を展開していく必要がある。学校評価が教育の質の向上と学校の活性化をねらって、地域・保護者に浸透していくのを感じた1年だった。

7. 次年度への課題・改善策
 ・小規模校・少人数という特色を生かして、学力を定着させるための指導方法の研究
 ・9年間を見通した小中連携とお互いを理解し励まし合う楽しい学校づくり

8. 学校関係者評価 総合評価
 ○○には、自然の豊かさや人の温かさがある。今の○○らしさを今後も継続してほしい。先生方によく頑張ってもらっていると思うが、児童生徒は甘えすぎてもいけない。
 学校への行事は、なるべく参加したい。そのためには、授業参観や各種行事を日曜日開催をお願いしたい。保護者は、茶園作業や他の仕事が多いので、父親の参観を促すためにも検討してもらいたい。学校関係者評価委員会は回を重ねる毎にわかってきた。このような会議の内容を今後は広く発信していったら更によりよい○○学校になるだろう。

実践成果

共通の当事者意識

① 4月に教職員の共通理解を図り、全職員による参画体制を構築できた。校務分掌担当者は、具体的な目標に向けて意識して取り組むようになり、進捗状況をお互い話すことで共通の当事者意識が高まった。また、中間評価を行うことで、年度途中の達成状況を把握でき、解決のための方策が生かされ、年度末評価に成果として表れた。その成果を学校・家庭・地域が共感しあうことで、良好な関係が今後も築かれていくと思われる。

学校関係者評価委員はキーパーソン

②今年度から学校関係者評価を入れたことで、評価の客観性が高まった。ただ、学校と学校関係者評価委員との間に評価のズレが大きかった項目がある。この評価のズレに視点をあて、「評価のズレは、どういう理由によるのか」を学校関係者評価委員会の中で、お互い意見交換を行った。この意見交換や質疑応答が双方向から活発に出されたことで、評価内容の深まりと改善への意欲をお互い実感できた。学校関係者評価委員会で活発な意見交換をした結果を、当事者である教職員に明確に伝達ができ、次のステップに生かしたことは大きな成果だったといえる。今後、学校関係者評価委員が、学校応援団の核として地域社会にどう関わっていくかが効果を上げる鍵である。

アンケートの工夫とプラスα

③児童・生徒・保護者・教職員アンケートは、工夫が必要であることがわかった。まず、アンケートを実施する時期や内容の工夫である。長期休業後と教育活動が充実している頃と比べたら、自ずと結果に差がでてくる。7月と12月に実施して、長期休業中に集計をした方がアンケートの意義があり集計も効率的にできると思った。アンケート内容は、教育の質の向上を考えて、具体的な目標にそったわかりやすいものに変えていく必要がある。数字は、変容をみることには有効で、学校評価に必要なものである。しかし、数字ばかりに固執せず、自由記述で書いてもらった声も大切にする。学校関係者評価委員の意見の中に、「数字の羅列は味気ない」という意見があり、学校が人格を形成するという教育の場であり、人格の形成は数字では表せないという意味を含んでいると思われる。自己評価の説明は、プレゼンテーションを行い、アンケート結果で特徴が現れたものだけに絞って説明をしたり、写真を多く取り入れて説明をしたりしたことで、わかりやすいと好評を得た。

学校の独自性

④ 網羅的になっている評価項目を絞り込んでいく必要があることがわかった。県指定の項目と学校の独自性を持たせた項目を十分検討して決定する。そのためには、教育目標の実現のために、学校が本年度重点的にめざしていく目標が明確でなければならない。学校の特色を出すためには、特別な項目を出すのではなく、継続して得た教育活動の積み重ねが学校の特色として、良い評価結果を残せると思われる。学校の独自性は、学校評価の積み重ねでできていくものであり、時間をかけて磨き上げた教育活動である。学校独自の誇りと自信に満ちた教育を育てていかなければならないと思う。

学校に人を呼び込む

⑤ 情報発信・学校公開・公表は、特に積極的に行い、学校理解を進めていった。学校便りは月1回以上、保健便りは週1回以上、他に学級通信等も頻繁に発行して成果を上げている。ホームページの更新も行ったがそれよりも、学校からの通信等が目にしやすく有効である。また、市報・新聞による教育活動の掲載も数多く行った。地域に幅広く読んでもらうというメリットがあり、読者からの感想をいただくことで、学校の教育活動に自信をつけるとともに、地域との交流に繋がった。授業参観や各種行事への学校公開は、保護者だけでなく区長・民生委員・学校評議員・主任児童委員等にも行い、その都度感想や意見をもらった。また、近隣の小中学校との交流も活発に行い、学校の良さをアピールしたり、刺激をもらったりした。特別支援学級や適応教室を学校に招待し、小規模校ならではの良さを理解してもらった。

このように便り等で早めに予定をお知らせし、学校に人を呼び込み、直接的な対話や共同体験・参観等でコミュニケーションを図ることが学校評価に有効に働くことが分かった。

9ヶ年の成長を見ていく楽しさ

⑥ 学校評価において、小中連携がしやすいという併設校のメリットがある。併設校では学習面や生活面で中1ギャップによる問題は非常に少ない。9ヶ年の子どもの成長を教師が年を追って見ていくメリットは大きい。小中の乗り入れ授業や合同行事を行い児童生徒の理解に役立っている。また、校内研修においては、小中の教師がお互いの授業を見せ合い、意見交換を行うことで少人数を生かした効果的な指導方法の研究に取り組んでいる。学校評価において、小中併設校ができる可能性を今後も伸ばしていきたい。

実践成果

共通の当事者意識

① 4月に教職員の共通理解を図り、全職員による参画体制を構築できた。校務分掌担当者は、具体的な目標に向けて意識して取り組むようになり、進捗状況をお互い話すことで共通の当事者意識が高まった。また、中間評価を行うことで、年度途中の達成状況を把握でき、解決のための方策が生かされ、年度末評価に成果として表れた。その成果を学校・家庭・地域が共感しあうことで、良好な関係が今後も築かれていくと思われる。

学校関係者評価委員はキーパーソン

②今年度から学校関係者評価を入れたことで、評価の客観性が高まった。ただ、学校と学校関係者評価委員との間に評価のズレが大きかった項目がある。この評価のズレに視点をあて、「評価のズレは、どういう理由によるのか」を学校関係者評価委員会の中で、お互い意見交換を行った。この意見交換や質疑応答が双方向から活発に出されたことで、評価内容の深まりと改善への意欲をお互い実感できた。学校関係者評価委員会で活発な意見交換をした結果を、当事者である教職員に明確に伝達ができ、次のステップに生かしたことは大きな成果だったといえる。今後、学校関係者評価委員が、学校応援団の核として地域社会にどう関わっていくかが効果を上げる鍵である。

アンケートの工夫とプラスα

③児童・生徒・保護者・教職員アンケートは、工夫が必要であることがわかった。まず、アンケートを実施する時期や内容の工夫である。長期休業後と教育活動が充実している頃と比べたら、自ずと結果に差がでてくる。7月と12月に実施して、長期休業中に集計をした方がアンケートの意義があり集計も効率的にできると思った。アンケート内容は、教育の質の向上を考えて、具体的な目標にそったわかりやすいものに変えていく必要がある。数字は、変容をみることには有効で、学校評価に必要なものである。しかし、数字ばかりに固執せず、自由記述で書いてもらった声も大切にする。学校関係者評価委員の意見の中に、「数字の羅列は味気ない」という意見があり、学校が人格を形成するという教育の場であり、人格の形成は数字では表せないという意味を含んでいると思われる。自己評価の説明は、プレゼンテーションを行い、アンケート結果で特徴が現れたものだけに絞って説明をしたり、写真を多く取り入れて説明をしたりしたことで、わかりやすいと好評を得た。

学校の独自性

④ 網羅的になっている評価項目を絞り込んでいく必要があることがわかった。県指定の項目と学校の独自性を持たせた項目を十分検討して決定する。そのためには、教育目標の実現のために、学校が本年度重点的にめざしていく目標が明確でなければならない。学校の特色を出すためには、特別な項目を出すのではなく、継続して得た教育活動の積み重ねが学校の特色として、良い評価結果を残せると思われる。学校の独自性は、学校評価の積み重ねでできていくものであり、時間をかけて磨き上げた教育活動である。学校独自の誇りと自信に満ちた教育を育んでいかなければならないと思う。

学校に人を呼び込む

⑤ 情報発信・学校公開・公表は、特に積極的に行い、学校理解を進めていった。学校便りは月1回以上、保健便りは週1回以上、他に学級通信等も頻繁に発行して成果を上げている。ホームページの更新も行ったがそれよりも、学校からの通信等が目にしやすく有効である。また、市報・新聞による教育活動の掲載も数多く行った。地域に幅広く読んでもらうというメリットがあり、読者からの感想をいただくことで、学校の教育活動に自信をつけるとともに、地域との交流に繋がった。授業参観や各種行事への学校公開は、保護者だけでなく区長・民生委員・学校評議員・主任児童委員等にも行い、その都度感想や意見をもらった。また、近隣の小中学校との交流も活発に行い、学校の良さをアピールしたり、刺激をもらったりした。特別支援学級や適応教室を学校に招待し、小規模校ならではの良さを理解してもらった。

このように便り等で早めに予定をお知らせし、学校に人を呼び込み、直接的な対話や共同体験・参観等でコミュニケーションを図ることが学校評価に有効に働くことが分かった。

9ヶ年の成長を見ていく楽しさ

⑥ 学校評価において、小中連携がしやすいという併設校のメリットがある。併設校では学習面や生活面で中1ギャップによる問題は非常に少ない。9ヶ年の子どもの成長を教師が年を追って見ていくメリットは大きい。小中の乗り入れ授業や合同行事を行い児童生徒の理解に役立っている。また、校内研修においては、小中の教師がお互いの授業を見せ合い、意見交換を行うことで少人数を生かした効果的な指導方法の研究に取り組んでいる。学校評価において、小中併設校ができる可能性を今後も伸ばしていきたい。

嬉野市教育委員会 学校教育課

住 所： 〒849-1492 佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲 1769 番地

電話番号： 0954-66-9128

FAX： 0954-66-5676

メール： gakkou@city.ureshino.lg.jp